

歌物語

“周遊” サロンコンサートシリーズ vol.12

～笛の音のする里に行かうよ～

うたとおはなし＊廣澤敦子

フルート＊辺見亜矢

ピアノ＊長谷智子

プログラム

- ・夏の思い出 中田喜直／江間章子
- ・サリーガーデン コリリアーノ／アイルランド民謡
- ・霧の中の露 コリリアーノ／アイルランド民謡
- ・しおれた花 シューベルト／ミューラー
- ・「しおれた花」による助奏と変奏曲 シューベルト

❧ Tea Time ❧

お菓子提供 ビストロ レアール (石川県小松市)

- ・雨降りお月・雲の蔭 中山晋平／野口雨情
- ・雨の歌 ブラームス／グロート
- ・雨の歌 ブラームス／グロート
- ・雨の降る間 ブラームス／コピシュ
- ・城ヶ島の雨 橋本國彦／北原白秋

みなさんで歌いましょう 夏の思い出

長谷智子 ピアノ

愛知県豊田市出身。5歳よりピアノを始める。名古屋市立菊里高校音楽科ピアノ専攻を経て、1995年東京芸術大学音楽学部楽理科卒業。在学中より伴奏活動を势力的に行なう。特にドイツリートに興味を持ち、96年渡欧。ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院、ドイツ国立カールスルーエ音楽大学演奏家養成コース・リート（1999年修了）、同大学国家演奏家資格試験コースに在籍し、ハルトムート・ヘル、白井光子両氏のもと、デュオとしてのリート演奏をテーマに研鑽を積む。またその間、レナード・ホカンソン等のリートピアニストのマスタークラスを受講。ドイツ各地にてリーダー・アーベントや室内楽のコンサートに出演。2000年カールスルーエ市での「冬の旅」公演では、「真の共演者として歌い手の声に完全に寄り添いながら、作品の音楽的内面を感受性豊かに浮かび上がらせた。」と、当地の新聞で高い評価を得る。また、98年ケルン市にて開催された「国際声楽コンクール」の公式伴奏なども務める。2001年帰国後は、フリーのピアニストとして日本各地でリートデュオの他、室内楽、合唱伴奏等アンサンブルを重点に幅広く活動している。京都光華女子短期大学講師

辺見 亜矢 フルート

愛知県明和高等学校音楽科、東京芸術大学音楽学部を卒業。その後ベルリン芸術大学に留学しディプロム取得。

同大学、Konzertexamen課程を審査員全員一致の最優秀の成績を得て修了。09年、ドイツ国家演奏家資格取得。第55回全日本学生音楽コンクール名古屋大会 第一位。

2008年にはドイツイサン・ユン協会によるイサン・ユン作品集のCDにエチュード3番の演奏が収録された。フルートをロスビタ・シュテゲ、アネッテ・フォン・シュタッケルベルク、金昌国、佐久間由美子、浅生典子の各氏に、ピッコロをペーター・レイクス、テオ・ヤンセンの各氏に室内楽をP.ドヴァイオン、H.J.グライナー、守山光三ら各氏に師事。

これまでにベルリン近郊のオーケストラにての演奏ほか、現代曲ではIsang Yun Gesellschaft主催コンサート"Solī Virtuosi"にて、またベルリンでのフルートフェスティバル、オープニングコンサートでベルリンフィルハーモニー・カンマーザールにて演奏したほか、09年帰国後はアレス室内合奏団とメルカダント作曲「フルート協奏曲」の共演や大阪フィルハーモニーの団員と共に「大阪クラシック」などに出演した。

現在、ソロ・室内楽・オーケストラを中心に活動。平成24年度より幸田町文化振興協会の登録アーティストとして町内の小学校でアウトリーチ活動を行う。愛知県立明和高等学校音楽科非常勤講師。

☂しぼめる花

あの娘がくれた
花はどれも
墓のなかに僕と
一緒に入れてもらおう

どの花も僕を
悲しそうに見ている
僕にどんなことが起きたか
知っているのだろうか？

なぜ花はどれも
しおれて色あせてるの？
花はどれも
なぜ 濡れているの？

ああ 涙からは
五月の緑は生まれない
死んでしまった愛は
再び花開きはしない

だが 春は来るだろう
そして 冬は去るだろう
小さな花が
草の中に出てくるだろう

そして僕の墓にも
花が横たわっている
あの娘がくれた
すべての花が

そのときあの娘が散歩して
墓を通りがかり
誠実な人だった！
と思ってくれたら

さあ どの花もみな
咲き出て 開け！
五月が来て
冬は去ったのだ

☂雨の歌

木々より落ちる雨は
青草の上に落ち
わが悲しき目より流れた涙は
頬をぬらす

再び太陽が輝けば、
草はさらに倍に青くなり
わが頬のあつい涙は
さらに倍に燃える

🌧 雨の歌

雨よ降れ、降れ
子供のころのあの夢を
もう一度呼び覚ましてくれ、
雨水が砂の上で泡立つ時に

すがすがしい冷気に、たちまち
夏物憂げな暑さが和らぐ時に、
そして青い葉が雨にぬれ
麦畑がいつそう青くなる時に

裸足で雨に打たれ、
草の中に手をさし伸べ、
手で水の泡に触れるのは、
なんと楽しいのだろう

そうでなければ、頬に冷たい雨を
受けとめて、
子供の頃に還った胸が、
初めて立ち上る香りに包まれるのは

濡れて水を滴らせている、
その盃の形をした花のように、
初めての香り、天からの露に
酔った花のように、
心はらくに呼吸する

身震いのするほど冷たい、
全ての雨滴が降りてきて、
この鼓動する胸を冷やし、
こうして、創造の聖なる営みが
私のひそやかな命に忍び入るのだ

雨よ降れ、降れ
あの昔の歌を
もう一度呼び覚ましてくれ
雨だれが外で音をたてていた時に
戸口でいつも歌ったあの歌を

もう一度、
あのやさしい湿った雨音に
耳を澄まさせていたい
聖なる、子供のときに感じた畏れに
私の心はやさしくつつまれる

🌧 雨の降る間

思い切り 激しく
屋根の上に落ちるがいい
すてきな雨のしずくたちよ
ぼくの恋人のやさしいキスの
回数が増えるんだ、
雨が降るほどに！

お前たちが降っていれば、
ぼくは彼女を抱けるけど
お前たちが止めば
彼女は帰ってしまうだろう
空よ、明るくなったりしないでくれ
雨だれよもっと激しく降ってくれ

夏の思い出

中田喜直／江間章子

夏が来れば 思い出す
はるかな尾瀬 遠い空
霧の中に 浮かびくる
やさしいかげ 野の小径
水芭蕉の花が 咲いている
夢見て咲いている 水のほとり
石榴花色に たそがれる
はるかな尾瀬 遠い空



夏が来れば 思い出す
はるかな尾瀬 野の旅よ
花の中に そよそよと
ゆれゆれる 浮き島よ
水芭蕉の花が 匂っている
夢見て匂っている 水のほとり
まなこつぶれば 懐かしい
はるかな尾瀬 遠い空